

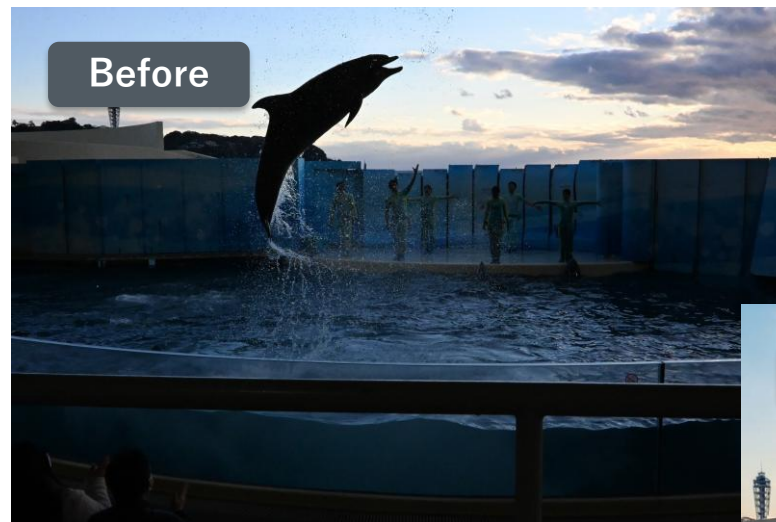
8月 Before / After

Sample 1：夕空を跳ぶ

記録写真から、

夕景と跳躍のシルエットを
伝える作品へ

- ① 作品のGoalを知る
- ② 技術でGoalに近づく



暗さと不要要素を整理し、イルカ・水しぶき・夕空へ視線を集める

1. Before：元写真を見る

まずは「何が写っているか」「どこに視線が向くか」を観察します

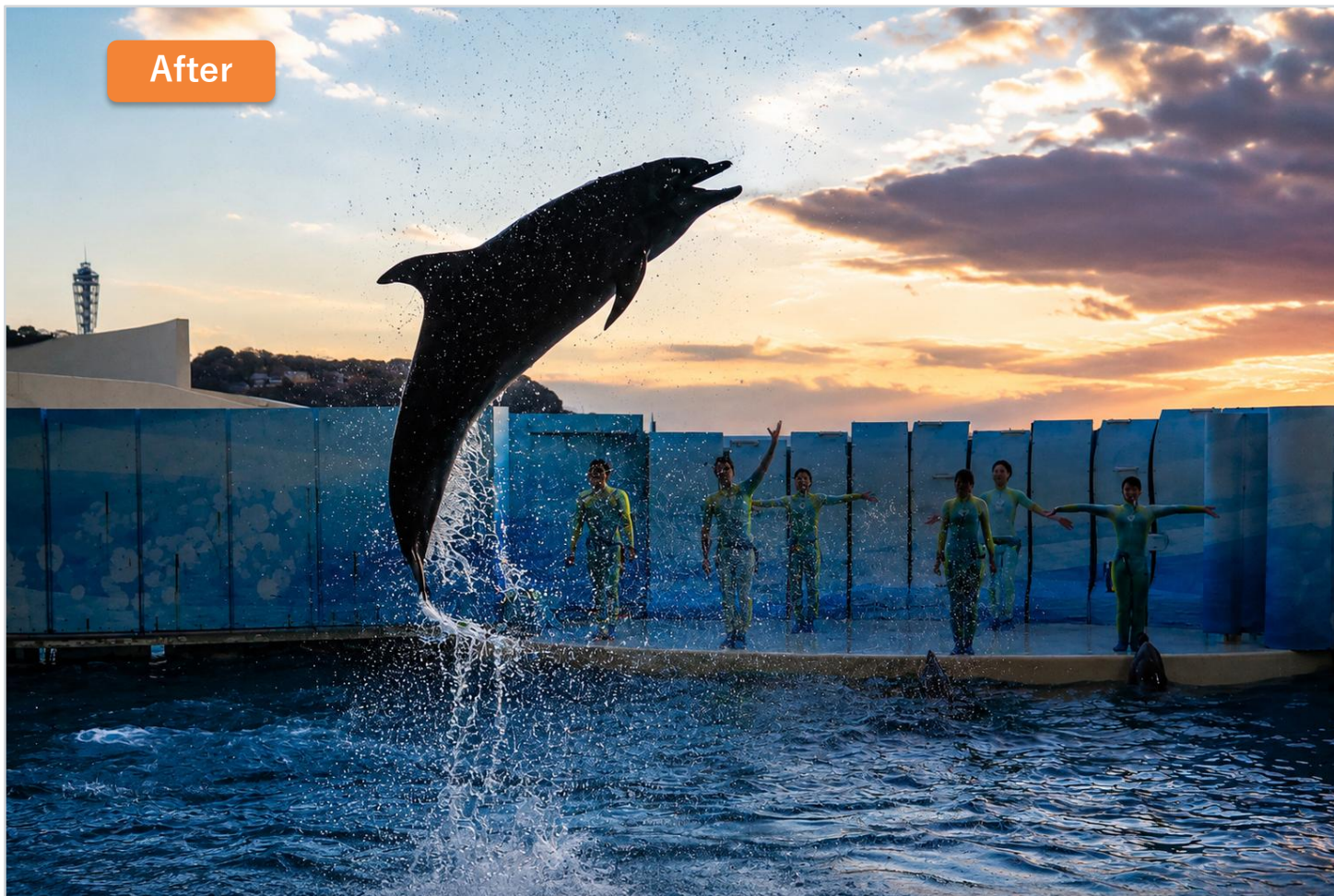
Before

- 主役候補：夕空を背景に跳ぶイルカ
- 視線：下の手すり・観客・暗い水面にも散る
- 印象：一瞬は良いが、全体が暗く見えにくい
- 課題：不要な下部を整理し、夕空と水しぶきを活かしたい

Beforeは「失敗」ではありません。
作品のGoalを考えるための出発点です。

2. After：作品風に整えた写真

写真の见せたい点を強め、見る人の視線が主役へ向かうようにします

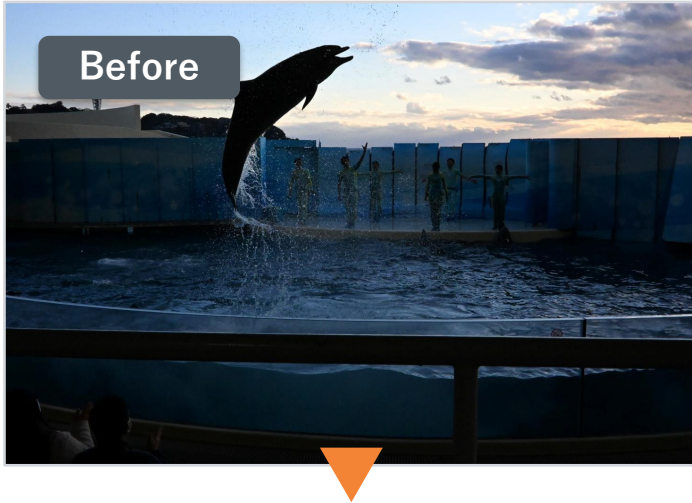


- イルカのシルエットが主役として立った
- 夕焼け空の色が整い、ドラマ性が増した
- 水しぶきが明るくなり、跳躍の勢いが伝わる
- 下部を整理し、視線が主役へ集まる

正解は一つではありません。
これは「作品化の方向」の一例です。

3. 編集ポイントと理由

何を変えたかではなく、「なぜそう整えるのか」を見ます



- 1 下部を切り取る：手すりと観客を外し、主役に集中する
- 2 暗部を少し持ち上げる：見えにくさを解消する
- 3 夕空の色を整える：時間帯の美しさを伝える
- 4 水しぶきを強める：ジャンプの勢いを出す
- 5 イルカはシルエットで残す：形で一瞬の強さを見せる



Goal：「夕景の中を跳ぶイルカのシルエット」を伝える

4. 作品タイトル案

タイトルは、写真の内容だけでなく「感じてほしいこと」を短く表します



第一候補

夕空を跳ぶ

候補2

跳躍のシルエット

候補3

光の中へ

候補4

夕暮れの飛翔

おすすめは「夕空を跳ぶ」
見たままの感動が短く伝わります。

5. キャプション案

キャプションは、写真に込めた思いを短い文章で補います



夕暮れの空を背景に、イルカが一瞬だけ宙へ浮かび上がった。水しぶきとシルエットが重なり、ショーの一場面が印象的な作品へと変わった。

- 暗い写真も、雰囲気として活かせる
- トリミングで主役をはっきりさせられる
- 明るくするだけでなく、光と影を整える
- 水しぶきや夕空は、作品の感情を支える要素になる

8月 Before / After

Sample 2：水槽のまなざし

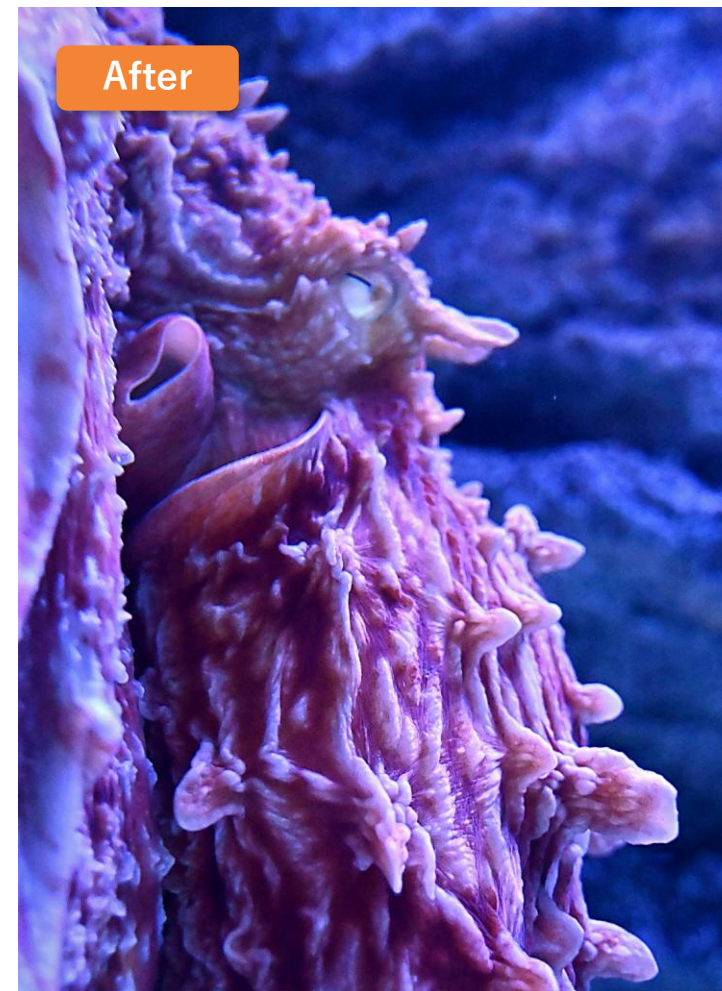
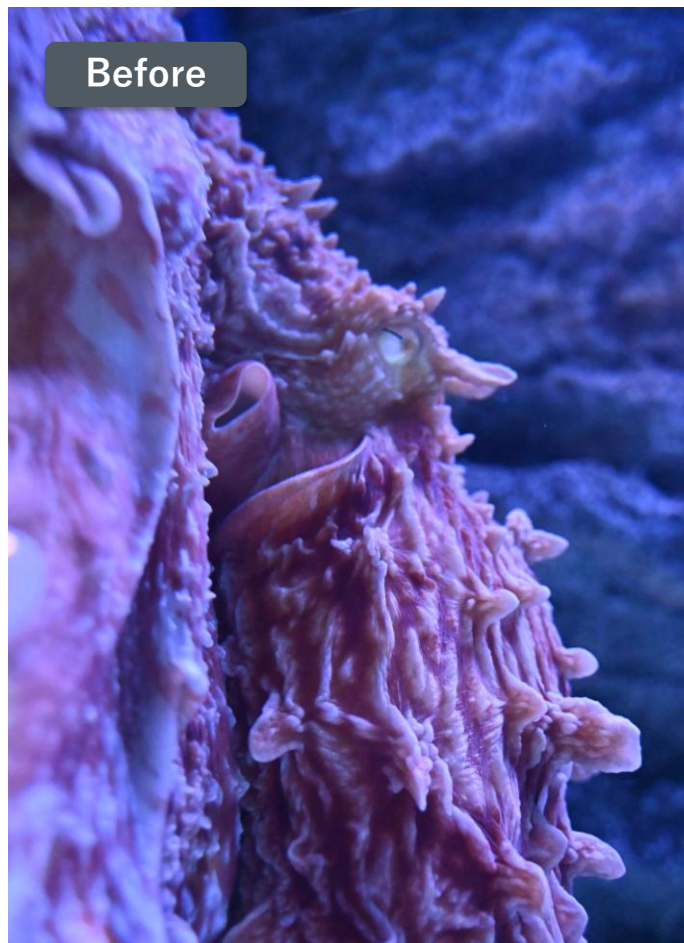
水族館の記録から、

青い光と質感を

伝える作品へ

① 作品のGoalを知る

② 技術でGoalに近づく



縦向きを活かし、タコ目・質感・青い水槽の静けさへ視線を集める

1. Before：元写真を見る

まずは「何が写っているか」「どこに視線が向くか」を観察します

Before



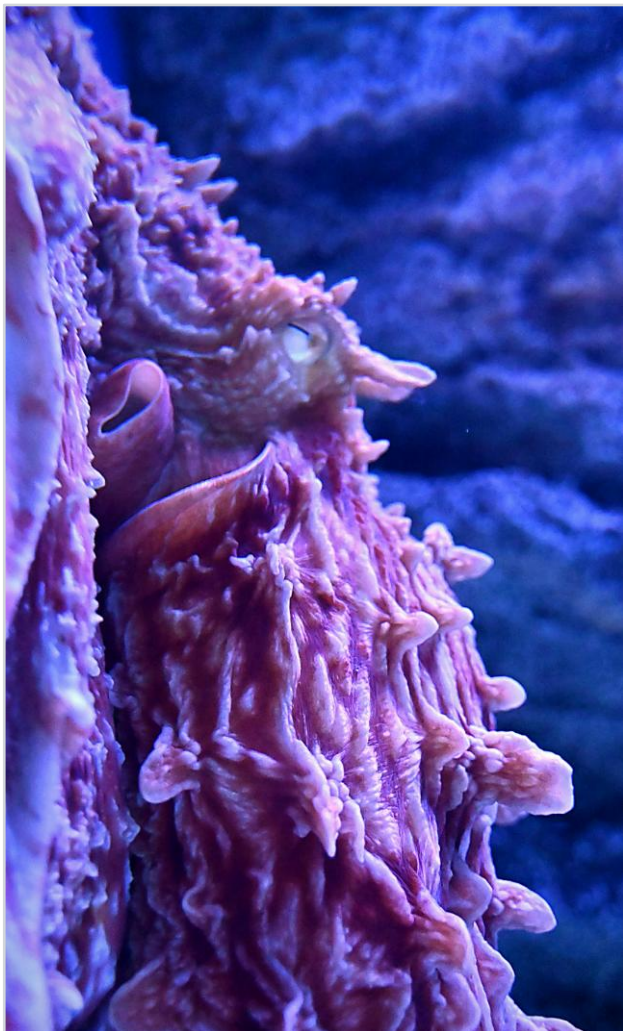
- 主役候補：タコの目と皮膚の質感
- 視線：左の明るいボケと青い背景にも流れる
- 印象：水槽の雰囲気はあるが、主役の目が少し埋もれる
- 課題：目と質感を中心に切り取り、水中の静けさを残したい

写真の向きは、この縦位置で自然です。
体の流れと目線が上へ向かって見えます。

2. After：作品風に整えた写真

写真の见せたい点を強め、見る人の視線が主役へ向かうようにします

After



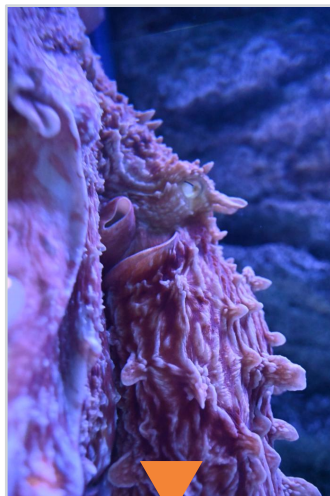
- タコの目が主役として見えやすくなった
- 左側の大きなボケを整理し、視線が戻りやすくなった
- 青紫の色を整え、水槽の空気を残した
- 皮膚の凹凸を少し強め、質感が伝わるようになった

正解は一つではありません。
これは「作品化の方向」の一例です。

3. 編集ポイントと理由

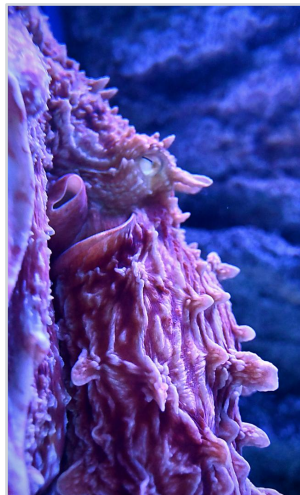
何を変えたかではなく、「なぜそう整えるのか」を見ます

Before



- 1 縦向きで使う：体の流れと目線が自然に見える
- 2 左側を少し切る：大きなボケで視線が逃げないようにする
- 3 目の周辺を少し明るくする：主役を明確にする
- 4 青紫の色を整える：水槽らしい空気を残す
- 5 質感を少し強める：皮膚の凹凸を作品の魅力にする

After



Goal：「水槽の青い光の中に浮かぶ、タコのまなざしと質感」を伝える

4. 作品タイトル案

タイトルは、写真の内容だけでなく「感じてほしいこと」を短く表します



第一候補

水槽のまなざし

候補2

青の静寂

候補3

海の記憶

候補4

静かな横顔

おすすめは「水槽のまなざし」
目を主役にしたことが素直に伝わります。

5. キャプション案

キャプションは、写真に込めた思いを短い文章で補います



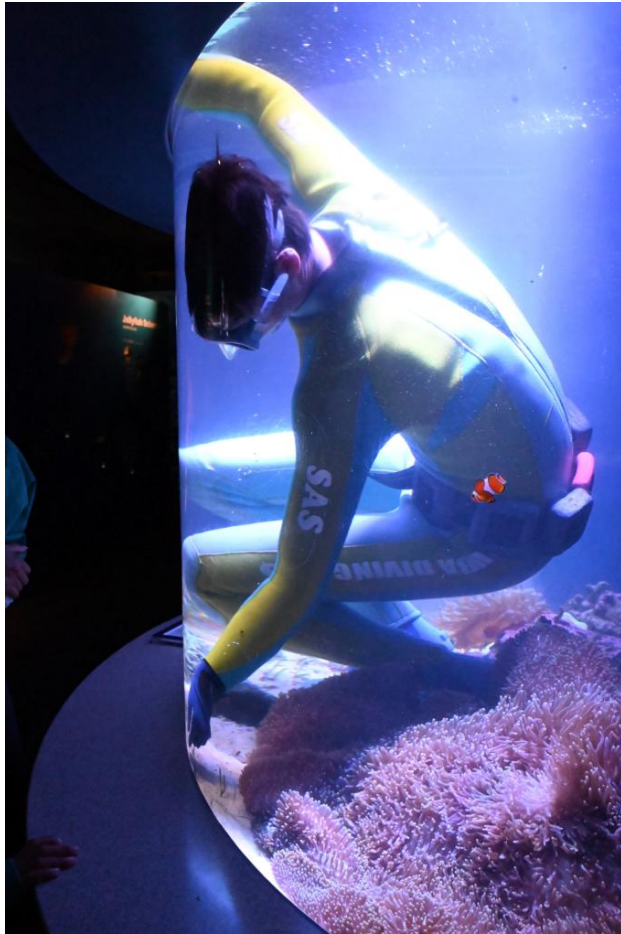
青い水槽の光の中で、タコの目が静かに浮かび上がる。
色と質感を整えることで、水中の静けさと生きものの存在感を引き出した。

- 水族館写真は、青い色を消しすぎない方が雰囲気が残る
- 主役が小さくても、目に視線を集めると作品になる
- 大きなボケは効果にも邪魔にもなるので整理する
- 質感を少し強めると、生きものの存在感が増す

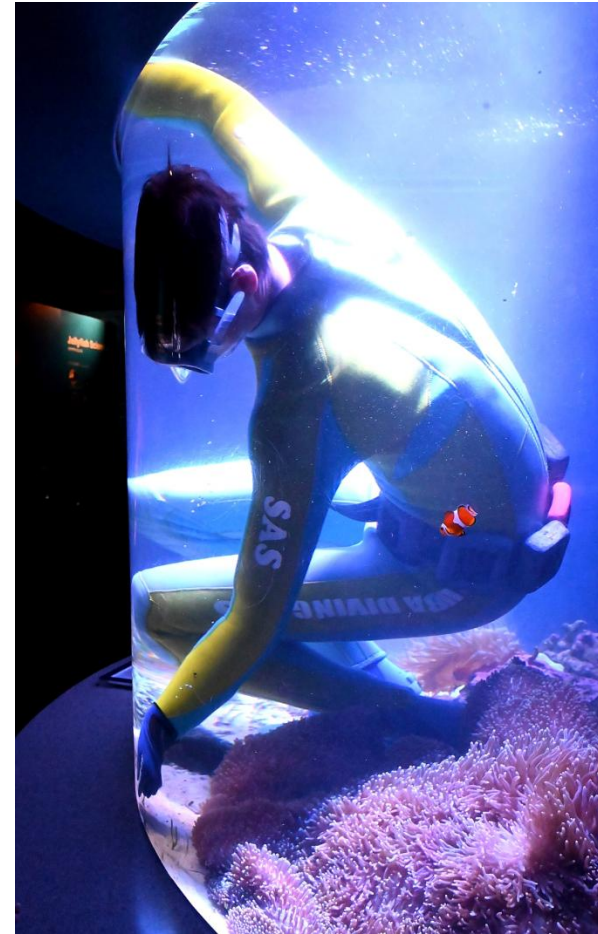
8月 Before / After 教材

Sample 3：水槽の小さな出会い

Before



After

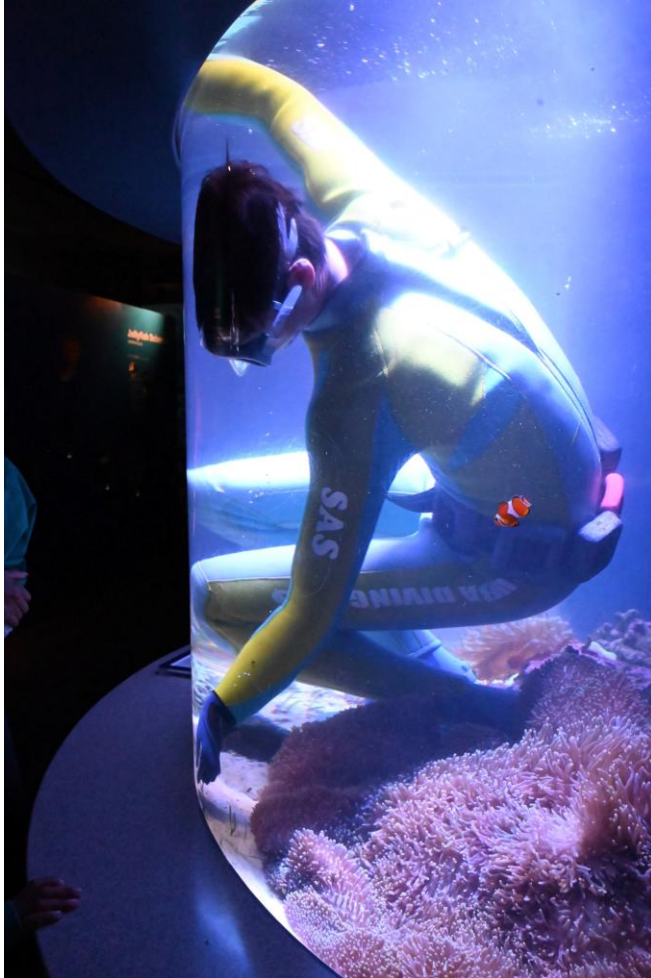


水槽の記録から、作業者・小さな魚・青い光を伝える作品へ

1. Before：元写真を見る

何が写っているか、どこへ視線が流れるかを観察します

Before



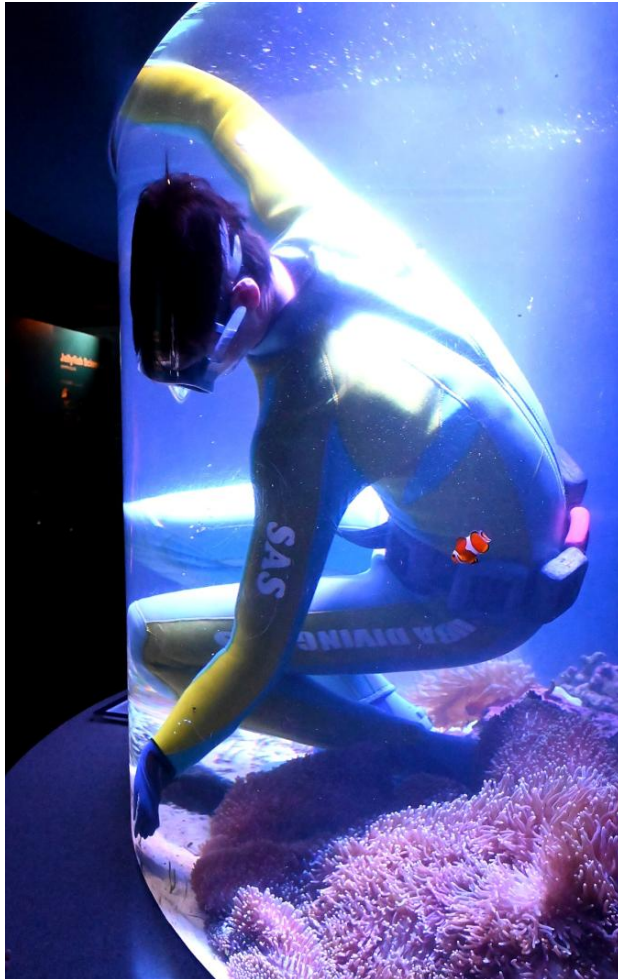
- 主役：水槽内の作業者
- 脇役：小さな魚とサンゴ
- 視線：左の黒い空間へ流れる
- 印象：青い光が幻想的
- 課題：左下を整理したい
- 方向：縦位置のまま使う

Beforeは失敗ではなく、作品のGoalを考える出発点です。

2. After：作品風に整えた写真

見せたい点を強め、見る人の視線が主役へ向かうようにします

After



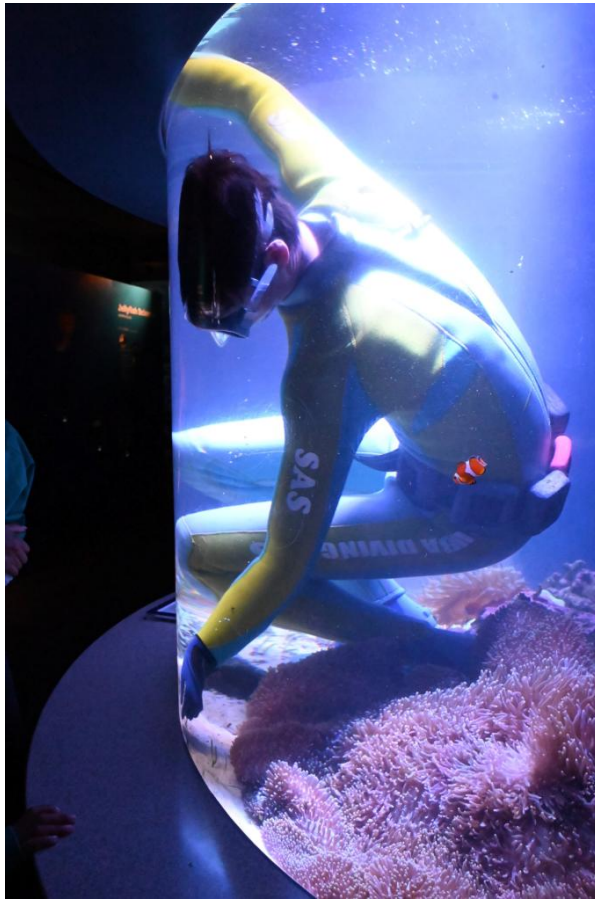
- 作業者が主役として見えた
- 小さな魚が物語を添える
- 左の暗部を整理した
- 青い水槽の空気を残した
- サンゴの質感を少し強調
- 水中の光を作品要素にした

正解は一つではありません。これは作品化の方向の一例です。

3. 編集ポイントと理由

何を変えたかではなく、「なぜそう整えるのか」を見ます

Before



After

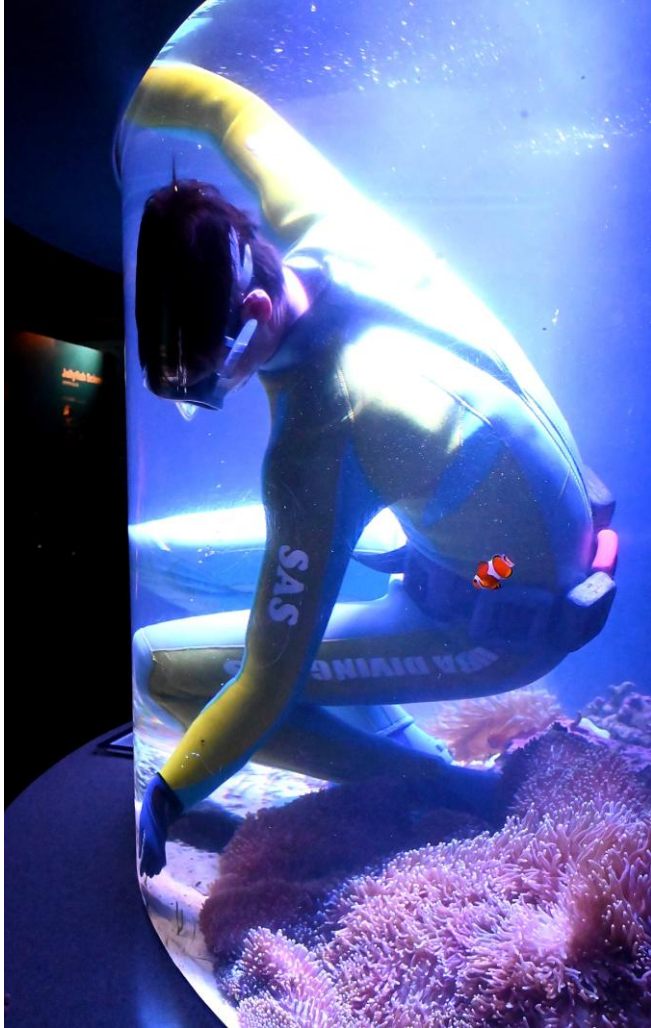


- 1 左側を切る：黒い空間を減らす
- 2 縦位置を活かす：体の流れを見せる
- 3 明るさ調整：水中の見えにくさを減らす
- 4 色を整える：青い水槽感を残す
- 5 質感を強める：サンゴと泡を活かす

Goal：水槽の中の小さな出会いを伝える

4. 作品タイトル案

タイトルは、写真で感じてほしいことを短く表します



第一候補 水槽の小さな出会い

候補2 青い世界の仕事人

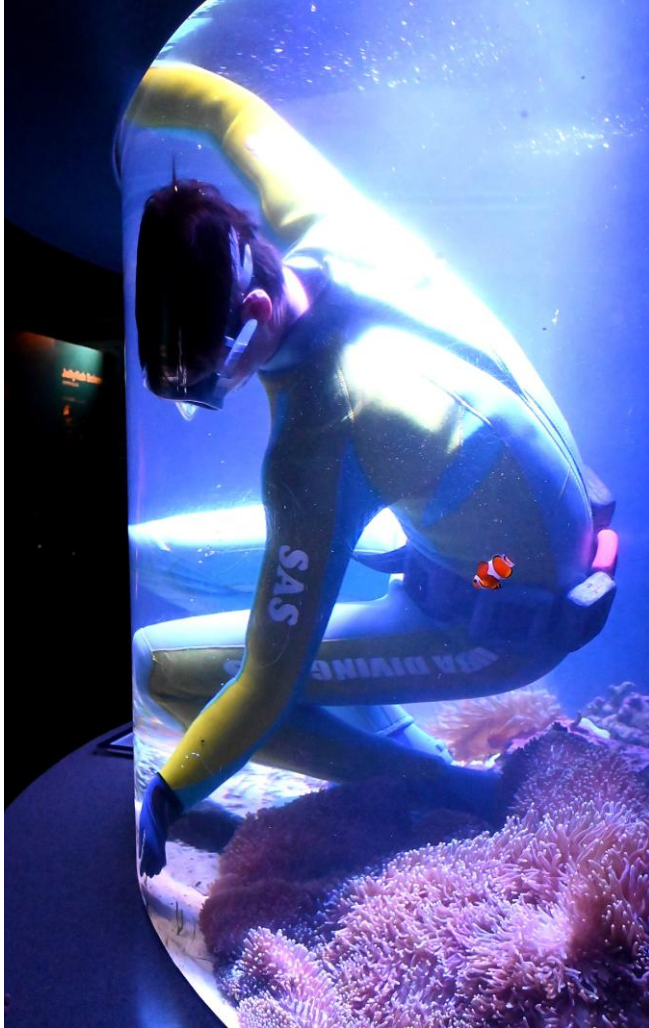
候補3 小さな案内役

候補4 水中のまなざし

おすすめは「水槽の小さな出会い」。魚と作業者の関係が伝わります。

5. キャプション案

キャプションは、写真に込めた思いを短く補います



青い水槽の中で、作業者のそばを小さな魚が泳ぐ。
光と色を整え、静かな出会いとして見せた。

- 水族館写真は青を残す
- 暗部を整理して主役へ導く
- 小さな魚も作品要素になる
- サンゴの質感で奥行きを出す
- 明るくしすぎず雰囲気を残す

8月 Before / After

Sample 4：雨の中の舞

記録写真から、

雨脚と踊りの勢いを

伝える作品へ

① 作品のGoalを知る

② 技術でGoalに近づく



不要物を整理し、雨・路面反射・踊りの列へ視線を集める

1. Before：元写真を見る

まずは「何が写っているか」「どこに視線が向くか」を観察します



- 主役候補：雨の中を踊る踊り子の列
- 視線：右下の黒いフレームや手前の路面にも散る
- 印象：臨場感は強いが、雑然として主役が弱い
- 課題：不要物を整理し、雨と動感を主題にしたい

Beforeには熱気があります。
まずは何を残し、何を外すかを考えます。

2. After：作品風に整えた写真

写真の见せたい点を強め、見る人の視線が主役へ向かうようにします

After



- 雨脚と路面反射が作品の印象になった
- 踊りの列が主役として見えやすくなった
- 左手前の子どもが物語を支える存在になった
- 不要物整理で視線が迷いにくくなった

正解は一つではありません。
これは「作品化の方向」の一例です。

3. 編集ポイントと理由

何を変えたかではなく、「なぜそう整えるのか」を見ます



- 1 右下の黒いフレームを外す：視線の分散を防ぐ
- 2 下部を少し整理する：路面反射を残しつつ画面を締める
- 3 雨粒を活かす：この場面らしい臨場感を残す
- 4 色とコントラストを整える：衣装の紫を生かす
- 5 列の流れを見せる：踊りの勢いを主題にする



Goal：「雨の中でも熱気を失わない、祭りの踊りの勢い」を伝える

4. 作品タイトル案

タイトルは、写真の内容だけでなく「感じてほしいこと」を短く表します



第一候補

雨を踊る

候補2

降りしきる拍子

候補3

濡れてなお舞う

候補4

雨脚の向こうへ

おすすめは「雨を踊る」
雨と踊りの両方が短く伝わります。

5. キャプション案

キャプションは、写真に込めた思いを短い文章で補います



激しい雨に打たれながらも、踊り子たちは歩みを止めない。
黒く光る路面と雨脚を生かし、祭りの熱気を一枚に閉じ込めた

- 記録写真でも、不要物を整理すると作品になる
- 雨は欠点ではなく、場の空気を伝える要素になる
- 路面の反射は、臨場感を支える背景になる
- 踊りの列の流れを見せると、動感が伝わる

8月 Before / After

Sample 5：編笠のリズム

祭りの記録から、
揃いの動きと色のリズムを
伝える作品へ

- ① 作品のGoalを知る
- ② 技術でGoalに近づく



斜めに連なる踊りの列と、赤い裾のリズムへ視線を集める

1. Before：元写真を見る

まずは「何が写っているか」「どこに視線が向くか」を観察します



- 主役候補：揃って踊る踊り子の列
- 視線：右下の人物や背景の明るい看板にも流れる
- 印象：色と動きは良いが、少し広く主役が分散する
- 課題：列のリズムを強め、画面を引き締めたい

Beforeの段階でもよく撮れています。
ここから「何を強く見せるか」を考えます。

2. After：作品風に整えた写真

写真の见せたい点を強め、見る人の視線が主役へ向かうようにします



- 踊りの列の反復が強く見えるようになった
- 赤い裾と編笠が、画面にリズムを作った
- 手前の後ろ姿が、見る人を場面へ導く役になった
- 背景を少し整理し、集中感が増した

正解は一つではありません。
これは「作品化の方向」の一例です。

3. 編集ポイントと理由

何を変えたかではなく、「なぜそう整えるのか」を見ます



- 1 列の並びを見せる：反復する形でリズムを出す
- 2 余分な端の情報を抑える：画面の集中感を高める
- 3 手前の後ろ姿を活かす：見る人の導入役にする
- 4 赤・青・白の色を整える：祭りらしい華やかさを残す
- 5 背景を少し落ち着かせる：踊りを前に出す



Goal：「編笠の列が生む、阿波おどりの揃ったリズムと高揚感」を伝える

4. 作品タイトル案

タイトルは、写真の内容だけでなく「感じてほしいこと」を短く表します



第一候補

編笠のリズム

候補2

阿波の拍子

候補3

揃いの舞

候補4

赤い足並み

おすすめは「編笠のリズム」
形の反復と踊りの流れが伝わります。

5. キャプション案

キャプションは、写真に込めた思いを短い文章で補います



編笠をかぶった踊り子たちの動きが連なり、
赤い裾が軽やかにリズムを刻む。
手前の一人を導入に置き、
阿波おどりの高揚感を作品としてまとめた。

- よく撮れた記録写真は、少しの整理で作品に近づく
- 繰り返す形は、画面にリズムを生む
- 前景の人物は、視線の入り口として活かせる
- 色を整えると、祭りの華やかさが伝わりやすい